

植松先生を偲んで 令和2年10月 農村調査部・竹馬会

植松先生の学生時代

昭和40年度 農村調査部入部者名簿

INDEX

番号	氏名	番号	氏名
No.1	井出 民生	No.16	山口 清
2	伊藤 直美		
3	石野 民子		
4	小尾 秀仁		
5	大津 茂男		
6	萩原 愛一		
7	野辺 八香		
8	植竹 依重		
9	上屋 文美		
10	上屋 健二		
11	越谷 仁健		
12	堀川 正和		



昭和40年度 農村調査部入部者名簿

昭和40年度調査 京都府にて

○当時の調査テーマ

昭和40年度 「宇治茶 京都府綴喜郡宇治田原町、郷／口南・荒木地区の実態調査」 仲道 俊博

昭和41年度 「米—新潟県三和村」

昭和42年度 「柑橘—愛媛県西宇和郡保内町喜木、宮内及び八幡浜市日土地区に於ける実態調査」 植松 斉

昭和43年度 「山村農業—豪雪地帯における山村農業—新潟県中魚沼郡津南町における実態調査」 阿久沢 一義

農村調査部創部30周年記念



東京農業大学 農友会農村調査部 創部30周年記念 S.62.10.31



歴代部長先生の紹介

- 初代 吾妻東策先生 昭和31年（1956年）～
 - 昭和33年（1958年）社会科学研究会時代から講演部、農村調査部、村の会部へ
- 2代 須々田黎吉先生 昭和37年（1962年）～
- 3代 植松 斉先生 平成4年（1992年）～
- 4代 高柳 和直さん 平成12年（2000年）～
- 5代 友田 清彦先生 平成21年（2009年）～
- 6代 野口 敬夫先生 平成27年（2015年）～



植松部長先生との思い出



農村調査部部長交代式（平成5年）



平成8年竹馬会懇親会



平成9年夏季調査合宿



平成9年収穫祭

植松先生へ贈る言葉

第4代農村調査部 部長 高柳和直（昭和63年度経済卒）

植松齊先生のご逝去にあたり謹んでお悔やみ申し上げます。

先生は平成4年に部長に就任し、当時少なかった部員の増加にご尽力されました。私の第一印象は「温厚な先生」、その後も変わりませんでした。このような先生に魅せられて部活動に励んだ方も多かったのではないのでしょうか。

何時だったか記憶が定かではありませんが、連絡があり先生の研究室に伺いました。そこで部長を交代してくれないかと突然言われ、答えに困りましたが、よくよく考えてのことだと思いお受けしました。

私は平成12年から部長を引継ぎましたが、その後先生は病に倒れました。教壇への復帰のためリハビリに努めていたと伺っており、農大の教職員も先生の人柄から、農大の在籍を残したまま復帰を願っていました。

先生と出張で飛行機の席が隣になったことがありました。飲み物が配られますが、先生はリングの研究をしており、いつもリングジュースを頼むそうです。私も一緒に飲みました。今、隣で美味しく飲んでいた先生の笑顔が思い出されます。

第6代農村調査部 部長 野口敬夫

植松先生のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

植松先生には農村調査部3代目部長として、1992年から1999年まで8年間の長きにわたり学生をご指導頂きました。

この時代の調査対象を振り替えると、日本の稲作や園芸に加えて、観光農業、有機農業や環境保全型農業など、これまで農村調査部で取り上げることが無かった幅広いテーマがみられます。ちょうど農業貿易の自由化が進み、国内農業の再編が進められる一方、環境保全型など持続可能な農業がこれまで以上に注目されるようになった時代かと思えます。

日本農業が大きく変革するなか、学生達の新たなチャレンジを導いて下さったのではないかと推察しております。

植松先生の下で築かれた農村調査部の伝統と引き継がれてきた格式を守りながら、今後、農村調査部が益々発展していくために、当方も微力ながら尽力して参りたいと思います。この度は、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

植松先生へ贈る言葉

山村 猛(昭和46年度農学卒)

植松先輩の在りし日のお姿を偲び、心より哀悼の意を表します。

高田 智(平成3年拓殖卒)

植松先生は新生農調の礎を築いていただきました。

部員数が大幅に増加した平成10年代、農大の大きな賞を獲られたお祝いの席に呼ばれて、参じたこともありました。とても感慨深い思い出です。昭和40年代の黄金期のOBでもあり、重ねて多大な功労者だと思います。心よりご冥福をお祈りいたします。

信戸 一利(平成8年度畜産卒)

植松先生、長い間のリハビリ生活、いろいろなご苦勞があったと思います。今は、安らかにお休みください。

先生の研究室にお伺いした時、毎日英語に触れる生活を続けていると仰っていました。教授になってもそうした日々の努力を続けていらっしゃることに、自分も頑張らねばと思いました。

また、部長先生は、農村調査部の活動については学生の自主性を重んじ、特に意見することはありませんでした。後に、それは前任の部長先生と真逆であったことを知り、とても良い環境を作ってください感謝申し上げます。病に倒れられ、入院中に私たち夫婦の結納をお知らせに伺ったこと、リハビリ中の御身体で、創部50周年記念講演会へ奥様とお越しいただいたこと、鮮明に覚えております。

本当にこれまでの農村調査部を支えて頂き、ありがとうございました。

信戸 寿賀子(平成9年度栄養卒)

植松先生の訃報に接し悲しみにたえません。

在学中には何かと気にかけてくださり親身にご指導を賜りました。

私は先生から「人事を尽くして天命を待つ」という言葉を頂きました。

どれほど勇気づけられたことでしょうか。

今でも心の支えとなっています。

ご生前のご厚情に感謝するとともに安らかにご永眠されますよう心よりお祈り申し上げます。